

平成 30 年 1 月 24 日

平成 29 年度 第 3 回 学校協議会

<協議会委員>

名 前	職 名
松 宮 新 吾	追手門学院大学教授
河原林 昌 樹	弁護士
中 野 旬 史	門真市立第五中学校長
脊 戸 利 子	門真市立砂子小学校長
三 村 泰 久	門真市教育委員会
青 木 美智子	門真なみはや高校 P T A 会長

欠席者 中野 旬史 委員

<事務局>

宮 田 幸四郎	教頭	山 口 周	生徒指導部長
瀬 利 悦 男	事務長	宮 蘭 賢 二	生徒会指導主任
辻 敏 彦	首席・2 学年主任	藤 田 和比郎	保健部長
三 井 和 夫	首席・教務部長	中 嶋 実	総務部長
山 村 裕 子	指導教諭	黒 田 いつみ	1 学年主任
山 中 えみこ	進路部長	西 田 恭 子	3 学年主任

欠席者 辻 敏彦

<開催日時> 平成 30 年 1 月 24 日 15 時～16 時 45 分

<内容>

○学校長挨拶

○議事

<審議事項>

- 1 平成 29 年度学校経営計画及び評価について
- 2 平成 30 年度学校経営計画について
- 3 第 2 回授業アンケート結果について
- 4 教育活動に係る保護者からの意見について

<報告事項>

- 1 学校運営協議会への変更について
- 2 教員の超過勤務の概況について
- 3 本校の教育活動について
- 4 その他

### <報告内容>

- 保護者の意見提出がなかったことを報告
- 今年度設置したカリキュラム委員会は、定期に開催し総合学科としてのカリキュラム作成の中心として機能した。
- 学校教育自己診断では「教え方を工夫している先生が多い」が評価指標をこえて 78%の肯定率であった。
- 授業アンケートの結果について、昨年同時期よりも概ね高めである。極端に低い数値は出ていない。学年による傾向の違いは特に見られないが、2, 3 年生は選択科目が多く、興味関心に応じて学んでいることもあってか、必修の科目よりは高めの数値が出ているケースが多い。
- 部活動の参加率が低下した。特に女子の参加率が低いが、これは本校に特徴的なことではなく多くの学校で共通の状況である。
- 教員の勤務実態について、三六協定でめやすとされる、月あたり 45 時間以上の超過勤務者は相当な数にのぼり、過労死ラインと言われる 80 時間以上の超過勤務者も少なくない。
- 生徒手帳を資料に、本校の生徒指導の方針について概要を説明し、意見を求めた。

### <意見・要望等>

- ・平成 29 年度の学校経営計画の実施状況は概ね良好である。
- ・継続的な取り組み課題である、教育内容の質的保証の一環としての授業改善に関わる評価が高くなっている一方で、授業の予習や復習を中心とした家庭学習や授業外学習の時間が改善されないなど、生徒の学びへ向かう姿勢や具体的な取り組みとの有機的な関連性を生み出すための手段・方策を来年度の取り組み課題の一つとして工夫・構築する必要がある。
- ・生徒の学習時間が短くなっていることに対し、スローガンを掲げて生徒へのメッセージを提示し続けていくことも効果があるのではないか？
- ・生徒の学習を支援するための学校での自習環境を提供しているが、遅くまで付き添う教員の負担が大きいのであれば、OBやOG、または近隣の大学にボランティアを募り手伝ってもらうなどの方法もあるのではないか？
- ・部活動参加率低下の原因は？
  - アルバイトも一因だが、それだけではなく、しんどいことを好まない傾向や日焼けを嫌うという生徒もいる。
- ・部活動参加率維持のために取り組んでいることはあるか？
  - 12 月にクラブ員による校内の大掃除を行った。各部のキャプテンを中心にクラブを超えた交流の場をもち、部活動以外の場面でもそのつながりが広がりを持つような働きかけを行った。また、スクールカウンセラーによる部活動参加者への人間関係ワークの研修を行った。
- ・「高校時代しかできないこと」を大切にしてほしい。部活動、勉強にしっかり取り組んで充実した学校生活を送ってほしい。家庭の意識も、もっと部活動に参加するよう後押しするよう変わってもらえれば、と思う。